

## 理科 学力調査から授業改善へ

### 1 学力調査の推移

#### (1) 現1学年 本校 (全国平均)

観 点	関心・意欲	科学的な思考	技能・表現	知識・理解

#### (2) 現2学年 本校 (全国平均)

観 点	関心・意欲	科学的な思考	技能・表現	知識・理解
H24年 7月 学力調査	<b>92.4%</b> (91.3%)	<b>49.5%</b> (47.4%)	<b>40.5%</b> (40.4%)	<b>54.3%</b> (54.1%)
H23年 5月 学力調査	<b>60.0%</b> (61.5%)	<b>66.5%</b> (67.3%)	<b>72.4%</b> (74.4%)	<b>67.2%</b> (68.1%)

#### (3) 現3学年 本校 (全国平均)

観 点	関心・意欲	科学的な思考	技能・表現	知識・理解
H23年 5月 学力調査	<b>52.2%</b> (57.1%)	<b>46.9%</b> (54.2%)	<b>47.7%</b> (53.3%)	<b>48.8%</b> (61.4%)
H22年 6月 学力調査	<b>51.2%</b> (59.9%)	<b>54.4%</b> (59.3%)	<b>54.0%</b> (59.0%)	<b>55.3%</b> (61.6%)
H21年 4月 WAT学力調査	<b>82.6%</b> (86.5%)	<b>49.5%</b> (57.4%)	<b>55.9%</b> (63.9%)	<b>59.1%</b> (65.4%)

### 2 結果分析と考察・課題

#### (1) 第1学年

- ①「観察、実験の技能・表現」の観点が全国平均を2ポイント下回っている。観察、実験の機会を増やし、データの処理やグラフ化などの技術的な表現力をつけさせたい。
- ②「観察、実験の技能・表現」以外の3観点とも全国平均を少し下回っている。小学校での内容の確認に力を入れていきたい。

#### (2) 第2学年

- ①4観点とも全国平均を上回っている。
- ②「技能・書く」の観点がその他の観点到に比べ低い。そのため、実験や作業をする機会を多くした授業展開の工夫を目指す。

#### (3) 第3学年

- ①どの観点も全国平均・期待正答率(H23)を下回っている。学年が進行するにしたがって、その差が改善されてきているが、学習分野や単元によってはその差が上下している。
- ②「科学的な思考」の観点が他の観点到に比べて正答率が低い。観察・実験の結果をもとに規則性や法則性を導き出したり、科学的事象の理由や原因を推測したりする力に課題がある。

### 3 課題解決のための手だて

#### (1) 第1学年

- ①観察・実験を通してお互いに学びあう場面を増やす。
- ②小学校での復習に力を入れて基礎・基本の定着を図る。
- ③ワークシートを工夫し、学習に対する意欲を高める。

#### (2) 第2学年

- ①実験や観察の機会を増やし、生徒が主体的に授業に参加できるように努める。
- ②学習内容に対する興味・関心を高めるような発問の工夫を図る。
- ③問題演習を定期的に行い、基礎学力をつける。

#### (3) 第3学年

- ①生徒が苦手と感じている分野・単元では、練習問題の時間を確保したり、復習テストを実施したりして、生徒の学習意欲を継続させるように努めていく。
- ②定期考査前のまとめプリントやワークシートの内容を工夫して、基礎・基本の定着に努めていく。
- ③観察・実験だけでなく、教室の授業でも友達と相談したり、話し合ったりする場面を設定し、科学的な思考力の育成に努めていく。